

言うは易し 傾聴は難し

昨日に引き続き、今日も面談（教育相談）がテーマです。今回の教育相談で先生方からお願いしているキーワードは『傾聴』です。日頃から子ども達の様子を見ている担任としては、「〇〇してほしい」「もっと〇〇したらいいのに」など、子ども達への思いがたくさんあります。しかし教育相談は指導の場ではなく、子ども達の今の気持ちを聞き取ることが目的となります。教師は話し上手が多いのですが、ここは『聞き役』となり、子ども達の内面を引き出すことが大事です。子ども達に困っていることがあったり、悩みがあったりしたら、それを聞き出して解決のための支援をすることが、今回の教育相談のポイントです。

先生方に『傾聴』と言っておきながら、私自身の過去を振り返ると傾聴どころか、「怒る」「怒鳴る」等の恥ずかしいことばかり思い出されます。特に若い時は自分の指導力のなさを棚に上げて「舐められないように」といったことから、怒ってばかりいました。そうすると生徒は黙って聞いているだけです。これで指導をしたと私は勘違いしていました。生徒は本当に悪かったと反省したのか？自分の行為を振り返ることができたのか？今後のために自分で判断し、行動する力はあるのか？今、振り返ると「？」ばかりが並びます。

令和3年度から全面実施された学習指導要領では、「予測困難な変化の激しい時代に、子ども達が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと」「自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすること」がうたわれています。「やらされるから」とか「怒られるから」ではなく、**主体的に活動すること**が望まれます。太宰府西中学校においても、子ども達の主体性を伸ばしていけるよう、指導・支援をしていきたいと思えます。

☆ 『傾聴』とは…

- ・「耳を傾けてきくこと」、あるいは「熱心にきくこと」（広辞苑）
- ・「傾聴」とは、相手の話を注意深く、共感的に「聴く」ことで、言葉だけでなく、相手の「思い」まで理解することを指します。
- ・「聴く」スキルは、常に相手軸のスタンスである。常に相手軸になるスタンスが「聴く」を難しくしている最大の要素となる。

